【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成29年11月24日(2017.11.24)

【公開番号】特開2016-77722(P2016-77722A)
【公開日】平成28年5月16日(2016.5.16)
【年通号数】公開・登録公報2016-029
【出願番号】特願2014-214489(P2014-214489)
【国際特許分類】
Ａ４７Ｋ　5/16　(2006.01)
Ａ４７Ｋ　5/12　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４７Ｋ　5/16
Ａ４７Ｋ　5/12　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成29年10月13日(2017.10.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
流入口から流入する所定の液体と空気を混合する混合室と、
前記混合室の下流に配置され、前記混合室から出てきた、前記液体と前記空気の混合物が通る際に、該混合物をムース状にする網目状のメッシュ部と、
前記メッシュ部を擦って清掃するための清掃部材と、
前記メッシュ部を通る流体の流れから力を受けて、前記清掃部材が前記メッシュ部を擦るように、前記清掃部材と前記メッシュ部を相対移動させる駆動機構と、
を有する
ことを特徴とするムース生成装置。
【請求項２】
前記駆動機構は、前記流体の流れから力を受けて回転する回転体を備え、前記回転体の回転運動を前記清掃部材と前記メッシュ部の一方に伝達して該一方を回転させることで、前記清掃部材が前記メッシュ部を擦るように前記清掃部材と前記メッシュ部を相対移動させる
ことを特徴とする請求項１に記載のムース生成装置。
【請求項３】
前記清掃部材と前記メッシュ部の前記一方は前記回転体と一体にされて前記回転体と共に回転する
ことを特徴とする請求項２に記載のムース生成装置。
【請求項４】
前記流体を、前記回転体のうちの該回転体の回転中心から外側へシフトした位置に向けて吐出する吐出口を有する
ことを特徴とする請求項２または３に記載のムース生成装置。
【請求項５】
前記回転体は、羽で前記流体の流れから力を受けて回転する
ことを特徴とする請求項２乃至４のいずれか１つに記載のムース生成装置。
【請求項６】

前記羽は、前記回転体の径方向に延びる複数枚で構成され、各羽は前記流体から力を受ける面が前記回転体の回転軸と平行にされており、
前記回転体は、回転軸の先端が前記流体の流れの斜め上流側を向くように配置されている
ことを特徴とする請求項５に記載のムース生成装置。
【請求項７】
前記回転軸は、前記メッシュ部に垂直にされており、
前記羽の前記メッシュ部側の端部は前記清掃部材としてのブラシを植毛し得る厚みにされて前記ブラシが植毛されている
ことを特徴とする請求項６に記載のムース生成装置。
【請求項８】
前記回転体は前記回転軸に垂直であって前記回転軸を中心に回転する円板部を有し、前記羽は該円板部に立設されている
ことを特徴とする請求項６または７に記載のムース生成装置。
【請求項９】
前記羽は、前記回転体の反回転方向に凹となるように湾曲した形状を有する
ことを特徴とする請求項５乃至８のいずれか１つに記載のムース生成装置。
【請求項１０】
前記清掃部材は、ブラシである
ことを特徴とする請求項１乃至９のいずれか１つに記載のムース生成装置。
【請求項１１】
前記ブラシは、１本１本の毛先が前記メッシュ部の網目の中に入るサイズにされている
ことを特徴とする請求項１０に記載のムース生成装置。
【請求項１２】
前記清掃部材は、互いの清掃範囲が異なるように位置をずらして複数個所に設けられている
ことを特徴とする請求項１乃至１１のいずれか１つに記載のムース生成装置。
【請求項１３】
前記流体は、前記流入口から流入する前記液体と空気の混合物、あるいは前記流入口から流入する空気である
ことを特徴とする請求項１乃至１２のいずれか１つに記載のムース生成装置。
【請求項１４】
前記液体は、液体石鹸である
ことを特徴とする請求項１乃至１３のいずれか１つに記載のムース生成装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
［３］前記清掃部材と前記メッシュ部の前記一方は前記回転体と一体にされて前記回転体と共に回転する
ことを特徴とする［２］に記載のムース生成装置。